

言葉は力

月曜日の道徳の授業で「心にしみこむ“言葉”の力」という題材を読みました。その中で「よき伝え手とは、よき聞き手であるということ」とありました。各クラスからは次のような意見や考えが挙がりました。

○相手のことを知る ○相手が何を求めているか考える ○話す相手との関係性によっても変わる
○相手を理解せずに一方的に話したら信頼されなくなる

発表やスピーチでもそうですが、どのように伝えたら聞き手に理解してもらえるかといった視点は大切です。しかしながら、ただわかりやすいスピーチが人の心を動かすかといったそれはまた別です。そこに感情や心がこもった表現がなければ、ただの言葉です。また、上記の意見にあるように、どんなによい言葉であっても仮にその言葉と矛盾した行動を起こしている人から言われたら、その言葉の効果は半減するでしょう。逆に信頼している人から言われたら、素直に言葉を受け取ることができるでしょう。つまり、言葉は実は言葉単体ではないということです。

さて、10月には意見文発表会があります。合唱祭もあります。それらは言葉を介して紡が

4日の道徳の授業の様子



れるものです。以前、先生のつぶやきの中で新保先生がおっしゃっていましたが、「〇〇係の仕事お疲れ!」「バトンパスうまくいったね」など自分から誰かに言葉で伝えることで、その場面がお互いの心に残ります。改めて、言葉と行動を共に大切にしていきましょう。



相手の意見に拍手する班



相手の聞き方によって気持ちが変わることを実感



学年の先生のつぶやき ～今週は藤井先生より～

高校生の頃ですが、私の学校は合唱祭の曲を自由に決めてよいことになっていて、高校一年生のときクラスで選んだ曲はスピッツの「空も飛べるはず」でした。（ドラマの主題歌でドラマにもはまっていた私。）合唱曲ではないので、元々あるハモリ以外はユニゾンになってしまいます。そこで、伴奏者や指揮者、有志で集まりどこにハモリを入れるかと話し合いました。色々音を探り、ポーンと音ができたとき「これだ！」と伴奏者の子と言い合いました。彼女はグループが別の人で普段たくさん話すわけではなかったのですが、あのときの心の通い合いは忘れられません。クラスでその音を歌ったとき、「いいね！」と歓声が上がりました。もし、先生が作って教えたものをただ歌っていたらこんなに心に残らなかったと思います。自分たちで本気で作ったから得られた喜び。大人になってもその曲が流れると、懐かしさで胸が温くなるような思い出。そういう経験が心の豊かさにつながると私は皆に伝えたい。

皆さんにとって最後の合唱祭。最優秀賞を目指していることでしょう。でもあえて言います。すべては後輩に見せる課題曲の学年の合唱、ここです。（プログラムにはないけど練習風景を後輩が見ます）ここがしょぼくてクラスだけよい、なんていうレベルは求めています！魅せましょう、クラスを超えて青学年がつながるような歌を。

「群青」。「青の集まり」。全員が主役です。一人ひとりの青春の1ページに今年の合唱祭が刻まれますように…！

<来週の予定>

日	曜	給食	1	2	3	4	5	6	学校行事等
18	月								敬老の日
19	火	○	○	○	○	○	○	○	ひばりルーム
20	水	○	○	○	○	○	学	—	ひばりルーム
21	木	なし	理テ	社テ	英テ	—	—	—	中間考査 1 日目
22	金	なし	数テ	国テ	総	—	—	—	中間考査 2 日目、一斉委員会
23	土								秋分の日

9/20（水） ⑤ 学活 後期各種委員・係決め

中学校生活最後の委員会・係活動になってきます。自分がどのようなことでクラス・学校を支え、その一員としての役割を果たそうかをよく考え、立候補してほしいと思います。

9/21（木） 中間考査 1 日目

① 理科 ② 社会 ③ 英語

9/22（金） 中間考査 2 日目

① 数学 ② 国語

③ 総合 卒業アルバム クラス写真撮影場所決め、避難訓練

放課後 後期第一回一斉委員会

朝の登校時間が遅くなっている人がまた増えています。8：25登校のために、生活を見直してください。

文化行事委員の3年生が考えたスローガンが採用されました。

昨年の合唱祭の良さを引き継ぎながらも、それを超えて進化できるように、心で歌うこと、そして魂を込めて全力で歌うことという意味が込められています。

